

令和3年度 地方創生交付金活用事業検証結果

事業NO.	事業名		有識者会議の検証結果
1	モノづくり集積地SUWAのヒトづくりプロジェクト(SUWAモノ・ヒトプロジェクト)	広域連携	総合戦略のKPI達成に向けて有効であった
	「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む経済好循環の確立を目指し、諏訪地域ものづくり産業のハイブランド化と、ブランドイメージを活かした“ものづくり人材”の UIJ ターン促進や若年層からのキャリア教育・人材育成等を通じた中長期的な人材確保策(SUWA独自のキャリア・サイクルモデル)を展開する。		
2	下諏訪町健康ステーション整備計画	※令和2年度ハード整備実施	総合戦略のKPI達成に向けて有効であった
	旧下諏訪町漕艇庫を改修し、利用者それぞれの目的や体力等に沿った運動を実践できる場として整備する。さらに当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(個人)」を構築し、施設利用者の満足度を向上させるほか、サポーター(個人)は、多様な働き方を行う意欲のある方々に担っていただくことで、新たな働き方創出の場とする。		
3	下諏訪町健康フィールド整備計画	※令和2年度ハード整備実施	総合戦略のKPI達成に向けて有効であった
	一般財団法人諏訪自動車協会が所有する車検場を改修し、「全天候・全世代」に対応できる運動場として整備する。当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(複数)」を構築し、教室参加者の満足度を向上させるとともに、サポーター(複数)を担う人材にとっては、多様な働き方を行う意欲のある住民にすることで、新たな働き方創出の場とする。		
4	下諏訪町「諏訪湖活用拠点」施設整備計画	※令和元年度ハード整備実施	総合戦略のKPI達成に向けて有効であった
	諏訪湖でできるボートやカヌー等の体験型観光プログラムを扱う上での拠点となる施設を整備する。 【整備後は下記の事業を行う予定】 1. 観光面での活用 ・体験プログラムを販売、「遊べる観光地」としての地域のブランド力の向上、イベントの誘致と開催による交流人口の拡大等 2. 健康面での活用 ・各種運動プログラムの開催による地域住民の健康寿命の延伸 3. 防災面での活用 ・湖上を船で物資や人を搬送するための水上防災拠点として機能を併せ持つ施設としての活用		

事業名	モノづくり集積地SUWAのヒトづくりプロジェクト(SUWAモノ・ヒトプロジェクト)				
担当課	産業振興課 商工係		連携自治体	岡谷市、諏訪市、茅野市、原村	
事業の概要・目的	「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む経済好循環の確立を目指し、諏訪地域ものづくり産業のハイブランド化と、ブランドイメージを活かした“ものづくり人材”の UIJ ターン促進や若年層からのキャリア教育・人材育成等を通じた中長期的な人材確保策(SUWA独自のキャリア・サイクルモデル)を展開する。 具体的には、産学官民の協働体制を構築し、「①SUWAブランドの販路開拓／技術力・魅力の発信」、「②若年層を対象としたSUWAブランドを活かしたものづくり機会の創出／域内ものづくり企業への就職促進」、「③域内企業向け提案型技術者の育成」を一気通貫で実施する。				
総事業費 ※交付金以外含	2,486,000円	交付金決定額	1,243,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	1,243,000円
経費内容	負担金 2,486,000円				
	合計 2,486,000円				
総合戦略での位置付け	基本目標	【雇用】地域の個性を活かし、誰もが安心して働ける環境を創出することによって、就労機会の増加をめざす			
	施策	誰もが働きやすいまちをめざす			
	重要業績評価指標(KPI)	町内の新規採用者数			
	実績値 R7年度目標値70人	R元年度(基準値) 63人	R3年度 55人	R4年度	R5年度 R6年度 R7年度(最終)
	基本目標	【雇用】地域の個性を活かし、誰もが安心して働ける環境を創出することによって、就労機会の増加をめざす			
	施策	新しい市場を作る			
	重要業績評価指標(KPI)	ものづくり支援センター受発注支援金額			
	実績値 R7年度目標値3億円	R元年度(基準値) 2億7,701万円	R3年度 6億8,255万円	R4年度	R5年度 R6年度 R7年度(最終)

事業詳細	
①	SUWAブランドの普及・高付加価値化事業
	目的・内容 製造業における諏訪地域のブランド力を多重的に情報発信し、技術力を活かした製品化支援、SUWAブランド知名度向上など地域の稼ぐ力の向上につなげる。
	実施状況 ①NAGANOものづくり諏訪圏域「新技術・新工法Web展示商談会」in SHIMADZU コロナ禍の影響から現地会場でのリアル展示商談会は開催が困難なため、“Web展示商談会”を実施することとした。事業の委託先であるNPO諏訪圏ものづくり推進機構は、専用サイトで中小製造業の技術アピールを行い、(株)島津製作所やグループ会社、協力会社とともに展示商談会を実施した。 ②地域商社機能の構築に向けた検討会 諏訪地域にある中小製造業の営業機能の補完や、SUWAブランド力の情報発信を目的としたNPO諏訪圏ものづくり推進機構が運営するホームページのリニューアル検討会を行うと共に、現在利用しているWebサービスを活かしビジネスマッチングを実施した。
	効果・成果 ①・出展者63社 ・提案件数89件 ・アクセス数1,181件 ・閲覧表示回数総計10,997回 ・来場者企業からの提案に対する問い合わせ有り回答の出展社数7件 ②マッチング件数32件
②	関係人口の創出とものづくり人材の育成・確保事業
	目的・内容 若年層の関係人口を増加させるとともに、小型ロケット製作打上やセミナー、支援等を通じて、移住者の創出や中長期的な人材確保と提案型技術者の育成を図る。
	実施状況 新型コロナウイルス感染症の影響により一部企画を延期・中止としながらも、SUWA小型ロケットプロジェクトのワークショップや模型ロケットの打上げ実験等を行ったほか、オンラインによる勉強会を行った。
	効果・成果 ①SUWA小型ロケットプロジェクト・ワークショップ ・6/19 79名 ・10/23 20名 ・10/27 64名 ・11/8 59名 ・11/16 26名 ・12/2 60名 ②ロボット創造教室 ・12/4 14名 ・12/18 10名 ③親子ものづくり教室 7/24 20名 ④理科大履修学生への特別講義「地域産業入門」 10/26 31名 ⑤SUWA小型ロケットプロジェクト参加信大生 14名

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	R3目標値	R3実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
NPO諏訪圏ものづくり推進機構を介したビジネスマッチング件数(件)	53	39	未達成	新型コロナウイルスの影響で、リアル展示会が開催できず、Web展示会の開催とした。
若年層を対象とした事業の参加人数(人)	256	397	達成	ワークショップ等を学年単位にするなど参加しやすい環境を整え、参加人数増加に繋がった。
新卒・第2新卒者(UJターン含む)等の地域内企業への就職者数(人)	220	169	未達成	全体として就職希望者数が減少していることに加え、職種の多様化、進学率の上昇等の影響により未達成となった。
粗付加価値額(億円)※増加分	9	実績値なし	実績値なし	経済センサスの数値を用いるため、令和3年度実績は令和5年度にわかる。(R2実績はR4年9月に公表予定)

事業期間における本事業における重要業績評価指標 (KPI)		R2	R3	R4	合計	達成状況
NPO諏訪圏ものづくり推進機構を介したビジネスマッチング件数(件)	目標値	50	53	49	152	未達成
	実績値	38	39		77	
若年層を対象とした事業の参加人数(人)	目標値	700	256	447	1,403	未達成
	実績値	206	397		603	
新卒・第2新卒者(UJターン含む)等の地域内企業への就職者数(人)	目標値	60	220	174	454	未達成
	実績値	210	169		379	
粗付加価値額(億円)	目標値	2,325	前年度実績+9	前年度実績+9	2,325	実績値なし
	実績値	実績値なし	実績値なし		実績値なし	

事業効果	③地方創生に効果があった
理由	KPIにおいては1項目が目標を達成した。未達成の項目については、新型コロナウイルス感染症拡大や全体的な就職希望者の減少に大きな影響を受けた。 昨年度に引き続きコロナ禍での事業展開となり、開催できなかった事業やKPIが目標値に達しなかった項目があるものの、一部KPIで目標値以上の実績を得られたことから事業により一定の成果があったとみなし、③地方創生に効果があったとする。

- <事業効果>

①地方創生に非常に効果的であった
 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合

②地方創生に相当程度効果があった
 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合

③地方創生に効果があった
 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合

④地方創生に対して効果がなかった
 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	令和2年度からプロジェクトとして新たな事業展開となったが、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で最大限の事業効果を得ることができなかった。3か年の事業計画により、事業を継続する。

- <今後の方針>

①事業の継続(計画通りに事業を継続する)

②事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)

③事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))

④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))

⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標 (KPI) 達成に有効であった／有効とはいえない
外部有識者からの意見	・コロナ禍の中、出来ることをやっている点で評価できる。 ・下諏訪町をモノづくりの町としてブランド化するという面にしてもとてもよい事業である。露出度を上げて、より認知度を上げるように力を入れていただきたい。 ・効果がわかりにくい事業であるが、長期にわたって取り組んでいかなければならないことだと思う。

事業No. 1 モノづくり集積地SUWAのヒトづくりプロジェクト(SUWAモノ・ヒトプロジェクト)



ロケットエンジン燃焼実験



ロケット打ち上げ実験



ロボット創造教室



親子ものづくり教室

事業名		下諏訪町健康ステーション整備計画						
担当課		教育こども課 健康サポート係		連携自治体	下諏訪町単独事業			
事業の概要・目的		旧下諏訪町漕艇庫を改修し、利用者それぞれの目的や体力等に沿った運動を実践できる場として整備する。更に、施設利用者が行う個々のトレーニングを多様な指導者がパーソナルトレーナーとして指導できるよう、当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(個人)」を構築し、施設利用者のニーズに沿った指導ができる体制を構築することで、施設利用者の満足度を向上させるほか、サポーター(個人)は将来的にスポーツ関係事業の起業を目指す方々や、働き方改革により「ダブルワーク」や「空き時間の活用」等多様な働き方を行う意欲のある方々に担っていただくことで、新たな働き方創出の場とする。						
拠点整備費	総事業費 ※交付金以外含	138,065,833円	交付金決定額	67,883,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	67,702,926円		
	経費内容	整備工事費	R2年度整備実施			109,635,044円		
		整備工事監理費				1,684,936円		
		効果促進事業費(トレーニング機器類の整備費)				26,745,853円		
		合計					138,065,833円	
運営費	総額	4,313,753円	施設運営費	4,313,753円	イベント等開催費	円		
	経費内容	健康運動施設(健康ステーション)管理費					4,313,753円	
総合戦略での位置付け		基本目標	【活性化】住民が安全・安心に暮らし、まちの宝を活かすことによって魅力を育み、ひとが集うまちをつくる					
		施策	健康長寿のまちづくり					
		重要業績評価指標(KPI)	健康スポーツゾーンを活用した講座回数及び参加者数					
		実績値 R7年度目標値 12回/160人	R元年度(基準値) 12回/145.2人	R3年度 12回/92人	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(最終)

事業詳細

	健康ステーション管理運営事業	
①	目的・内容	健康ステーションを適正に管理し、町民の自発的な健康づくりに寄与する施設として運営する。
	実施状況	健康ステーションについては令和3年5月10日に供用開始。コロナ禍でのオープンとなったが、感染予防対策を徹底したうえでの開館に努めた。
	効果・成果	新型コロナウイルス感染拡大に伴う利用控えもあったが、当初の利用者数は伸び悩んだ。また、東京五輪事前合宿の受入れや県の要請による、利用停止期間があったものの、令和3年度で延べ4,256人の利用があった。
	健康ステーション利用促進事業	
②	目的・内容	健康ステーション利用者の更なる獲得を目指し、施設の利用促進に繋がる各種事業を実施する。
	実施状況	施設の供用開始に合わせ、施設の見学会や運動教室等のプレオープンイベントを実施するなど、地域住民の認知度向上のために広報や新聞報道等により施設のPRに努めた。 また、新規利用者に施設に足を運んでもらう機会とするため、無料マシン体験会を毎月2回実施するとともに、体組成測定会などのイベントを実施した。
	効果・成果	供用開始初年で、671人(町内573人・町外98人)の利用登録があった。 また、習慣的に来館する利用者も増加しつつある。
	健康サポーター活用事業	
③	目的・内容	「健康サポーター制度」の効果的な運用により、町民の健康増進に関する取り組みを推進するとともに、健康サポーターの働き方改革、活躍の場の創出に繋げる。
	実施状況	健康サポーター制度を創設し、登録希望者向けの説明会を行うなど、本格運用に向けた準備を行った。
	効果・成果	計画では、令和3年度中に制度を創設し、運用を開始する予定であったが、コロナ禍の状況で、運動教室の開催等、サポーターの活動が困難であったことから、制度の創設のみ行った。サポーターの登録、具体的な事業協力等については令和4年度に開始する。

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	R3目標値	R3実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
下諏訪町健康ステーション利用者数(人)	3,000	4,256	達成	
下諏訪町健康サポーター(個人)登録者数(人)	5	0	未達成	R3については制度整備のみ
下諏訪町健康ステーションにおける健康サポーター(個人)によるサポートした件数(件)	50	0	未達成	R3については制度整備のみ

事業期間における本事業における重要業績評価指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	合計	達成状況
下諏訪町健康ステーション利用者数(人)	目標値	0	3,000	4,856	前年度実績+300	前年度実績+300	7,856	未達成
	実績値	0	4,256				4,256	
下諏訪町健康サポーター(個人)登録者数(人)	目標値	0	5	5	前年度実績+5	前年度実績+5	10	未達成
	実績値	0	0				0	
下諏訪町健康ステーションにおける健康サポーター(個人)によるサポートした件数(件)	目標値	0	50	50	前年度実績+50	前年度実績+50	100	未達成
	実績値	0	0				0	

事業効果	③地方創生に効果があった
理由	「下諏訪町健康サポーター制度」については、制度の整備に留まった一方で、施設利用者数は、KPIを達成した。健康ステーションを新たな働き方の創出の場とする前提として、施設利用者の確保は不可欠であることから、地方創生に効果があったものと考える。

<事業効果>

- ①地方創生に非常に効果的であった
 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- ②地方創生に相当程度効果があった
 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- ③地方創生に効果があった
 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- ④地方創生に対して効果がなかった
 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	新型コロナウイルス感染拡大等により、利用者数の伸び悩みなどはあったが、施設の運営について一定の成果を得ることができた。町民への施設利用の促進、新規利用者の獲得を進めるとともに、令和4年度から本格実施となる健康サポーター制度について、当初計画からの微調整を図りながら効果的な運用方法を検討実施するなど、計画期間内につき、事業を継続する。

<今後の方針>

- ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ②事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
- ③事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標(KPI)達成に有効であった／有効とはいえない
外部有識者からの意見	・R4年度はサポーター制度の導入や夜間開館にも取り組み、改善への姿勢も見られた。 ・継続的に利用してもらえるような工夫とサポーター制度に期待。 ・施設利用者が町内で消費活動を行うよう促す仕組みが必要である。

事業No. 2 下諏訪町健康ステーション整備計画



健康ステーション利用状況①



健康ステーション利用状況②



健康ステーション利用状況③



健康ステーション利用状況④

事業名		下諏訪町健康フィールド整備計画						
担当課		教育こども課 健康サポート係		連携自治体	下諏訪町単独事業			
事業の概要・目的		一般財団法人諏訪自動車協会が所有する車検場を改修し、「全天候・全世代」に対応できる運動場として整備する。 更に、健康教室等を指導するための当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(複数)」を構築し、教室参加者の満足度を向上させるとともに、サポーター(複数)を担う人材は、将来的にスポーツ関係事業の起業を目指す方や働き方改革で「ダブルワーク」「空き時間の活用」等多様な働き方を行う意欲のある住民にすることで、新たな働き方創出の場とする。						
拠点整備費	総事業費 ※交付金以外含	26,113,400円	交付金決定額	13,238,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	13,056,700円		
	経費内容	整備工事費			20,414,709円			
		整備工事監理費			614,461円			
		効果促進事業費(駐車場整備費)			R2年度整備実施	5,084,230円		
		合計			26,113,400円			
運営費	総額	3,806,869円	施設運営費	3,189,713円	イベント等開催費	617,156円		
	経費内容	健康運動施設(健康フィールド)管理費			3,189,713円			
		完成記念式典開催費			562,156円			
健康フィールド活用事業費			55,000円					
総合戦略での位置付け		基本目標	【活性化】住民が安全・安心に暮らし、まちの宝を活かすことによって魅力を育み、ひとが集うまちをつくる					
		施策	健康長寿のまちづくり					
		重要業績評価指標(KPI) 健康スポーツゾーンを活用した講座回数及び参加者数						
		実績値	R元年度(基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(最終)
		R7年度目標値 12回/160人	12回/145.2人	12回/92人				

事業詳細	
①	健康フィールド管理運営事業
	目的・内容
	健康フィールドを適正に管理し、個人や団体の自主的な健康づくりの場、運動講座の会場等としての活用を図る。
	実施状況
②	健康フィールド利用促進事業
	目的・内容
	健康フィールド利用者の更なる獲得を目指し、施設の利用促進に繋がる各種事業を実施する。
	実施状況
	効果・成果
③	健康サポーター活用事業
	目的・内容
	「健康サポーター制度」の効果的な運用により、町民の健康増進に関する取り組みを推進するとともに、健康サポーターの働き方改革・活躍の場の創出に繋げる。
	実施状況
	効果・成果

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	R3目標値	R3実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
下諏訪町健康フィールド利用者数(人)	3,000	2,673	未達成	新型コロナウイルスの影響等により、利用停止の期間があったため
下諏訪町健康サポーター(複数)登録者数(人)	5	0	未達成	R3については制度整備のみ
下諏訪町健康フィールドにおける健康サポーター(複数)によるサポートした件数(件)	50	0	未達成	R3については制度整備のみ

事業期間における本事業における重要業績評価指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	合計	達成状況
下諏訪町健康フィールド利用者数(人)	目標値	0	3,000	3,273	前年度実績+300	前年度実績+300	6,273	未達成
	実績値	0	2,673				2,673	
下諏訪町健康サポーター(複数)登録者数(人)	目標値	0	5	5	前年度実績+5	前年度実績+5	10	未達成
	実績値	0	0				0	
下諏訪町健康フィールドにおける健康サポーター(複数)によるサポートした件数(件)	目標値	0	50	50	前年度実績+50	前年度実績+50	100	未達成
	実績値	0	0				0	

事業効果	③地方創生に効果があった
理由	施設の利用者数については、KPIを達成できないなど、日常的な施設の利用者の増加など課題はあるものの、コロナ禍の中、一定数の施設利用があった。 また、「下諏訪町健康サポーター制度」について、制度整備に留まったものの、各種事業の中で、健康サポーター自身の新たな働き方の創出に向け、施設の効果的な活用方法の方向性を見出すことができたことから地方創生に効果があったと考える。

<事業効果>

- ①地方創生に非常に効果的であった 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- ②地方創生に相当程度効果があった 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- ③地方創生に効果があった 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- ④地方創生に対して効果がなかった 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとはいえないような場合

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	新型コロナウイルス感染拡大等により、利用者数の伸び悩みなどはあったが、一定の施設利用者数が確保できた。町民への施設の認知度をさらに高め、利用促進を図るとともに、令和4年度から本格実施となる健康サポーター制度の効果的な運用方法を検討実施するなど、計画期間内につき事業を継続する。

<今後の方針>

- ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ②事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
- ③事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標(KPI)達成に有効であった / 有効とはいえない
外部有識者からの意見	・健康ステーションと健康フィールドは上手く共同運用するようにした方がよい。 ・整備事業としては評価できる。コロナ禍での難しさはあるが、今後の利用促進に向けた魅力づくりに期待。

事業No. 3 下諏訪町健康フィールド整備計画



運動教室(屋内フィールド)



親子ヨガ教室(屋内フィールド)



子ども向け運動教室(屋外フィールド)



サッカークリニック(屋外フィールド)

事業名		下諏訪町「諏訪湖活用拠点」施設整備計画					
担当課		教育こども課 スポーツ振興係		連携自治体	下諏訪町単独事業		
事業の概要・目的		諏訪湖を活用した水上スポーツの拠点として、ボートやカヌー等の体験型観光プログラムを扱う上での拠点となる施設を整備する。また、整備後は、観光客の滞在時間の拡大や観光消費額の増大を目的とする観光面での活用、地域住民の健康寿命の延伸を図る健康面での活用、大規模災害時に湖上を船で物資や人を搬送するための水上防災拠点としての防災面での活用を推進していく。					
拠点整備費	総事業費 ※交付金以外含	207,180,421円	交付金決定額	122,694,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	103,590,210円	
	経費内容	諏訪湖活用拠点建築工事費				203,371,245円	
		諏訪湖活用拠点建築工事監理費				3,809,176円	
		R元年度整備実施					
		合計 207,180,421円					
運営費	総額	6,056,503円	施設運営費	6,056,503円	イベント等開催費	円	
	経費内容	施設維持管理費用				3,306,503円	
		ローイングパークコース設置委託料				2,420,000円	
		ローイングパーク公認コース認定料				330,000円	
総合戦略での位置付け		基本目標	【人の流れ】町の資源や価値などの魅力を創造し、多様な人材が交流しながら、下諏訪町への新たなひとの流れをつくる				
		施策	まちの魅力を活かした過ごし方やできることの発信				
		重要業績評価指数(KPI)	観光消費額(1人あたりの消費単価)				
		実績値 R7年度目標値 3,000円	R元年度(基準値) 2,343円	R3年度 2,364円	R4年度	R5年度	R6年度 R7年度(最終)

事業詳細	
①	体験プログラム開催事業
	目的・内容 「諏訪湖活用拠点」施設を活用するため、諏訪湖で行うことができる体験プログラムを開催する
	実施状況 小中学生レガッタ・ボート体験会:11/20～21 参加者38人 (長野県ボート協会)
	効果・成果 体験会を開催することで、諏訪湖を活用した競技に触れる事業に取り組むことができたが、新型コロナウイルスの感染状況等により開催回数自体を増やすことができなかった。
②	企業研修開催事業
	目的・内容 ボート体験をチームビルディングに活用する企業研修を実施する
	実施状況 開催した企業研修なし
	効果・成果 企業研修実施に向けた検討を進め、研修を活用してくださる企業もあったが、新型コロナウイルスの感染状況等により、令和3年度は企業研修等を実施することができなかった。
③	拠点を活用した健康増進教室等開催事業
	目的・内容 整備された拠点施設を活用し、健康増進教室等を開催し、地域住民の健康増進を図る
	実施状況 (1)親子サッカー教室・サッカークリニック(11/23) 39人 (2)ブラインドサッカー体験教室(3/21) 24人
	効果・成果 運動教室を開催することで、施設の利活用を図るとともに、参加者の健康づくりに繋げる取り組みとなった。この他、教室の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、開催を中止した。

事業期間における本事業における 重要業績評価指標 (KPI)	R3目標値	R3実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
諏訪湖で行うことができる体験プログラムの参加者数(人)	300	38	未達成	新型コロナウイルスの感染拡大や悪天候により一部体験会を除き、開催できなかった。
ボート体験をチームビルディングに活用する企業研修の参加者数(人)	200	0	未達成	新型コロナウイルスの感染拡大により、企業研修を実施することができなかった。
拠点を活用した健康増進教室の参加者数(人)	275	63	未達成	新型コロナウイルスの感染拡大により、一部健康増進教室等を除き開催できなかった。

事業期間における本事業における 重要業績評価指標 (KPI)		R1	R2	R3	R4	R5	合計	達成状況
諏訪湖で行うことができる体験プログラムの参加者数(人)	目標値	0	700	300	138	前年度実績+100	1,138	未達成
	実績値	0	0	38			38	
ボート体験をチームビルディングに活用する企業研修の参加者数(人)	目標値	0	200	200	200	前年度実績+200	600	未達成
	実績値	0	0	0			0	
拠点を活用した健康増進教室の参加者数(人)	目標値	0	100	275	163	前年度実績+100	538	未達成
	実績値	0	175	63			238	

事業効果	③地方創生に効果があった
理由	新型コロナウイルスの感染拡大による施設の閉鎖を余儀なくされるなど、ほとんどのイベントが開催できず、「人を集める」事業の実施という観点では大きな影響を受けた。しかしながら、足湯を含めた施設一帯はボート競技者のもとより、ウォーキングやランニングなどに取り組む方々の新たな「拠点」として定着してきており、地域の拠点としての効果が出始めていると感じるほか、事業以外の取組みとなるが全日本中学選手権競漕大会を誘致し、ボート競技の場としての認知度も全国的に上がっていることから、KPIの達成状況は芳しくないが、地方創生に効果があったと考える。

<事業効果>

- ①地方創生に非常に効果的であった 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- ②地方創生に相当程度効果があった 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- ③地方創生に効果があった 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- ④地方創生に対して効果がなかった 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとはいえないような場合

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	新型コロナウイルスの感染拡大によりソフト事業の実施に大きな影響を受けた。これは今後も続くことが予想され、これまでのように単純に「人を集めればよい」という考えではコロナ対策にはならず、地域の理解も得られないため、計画に定めた事業について、感染防止対策を講じつつ、必要に応じて実施方法を変えることも視野に入れながら、計画期間内につき、事業を継続する。

<今後の方針>

- ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ②事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
- ③事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標(KPI)達成に有効であった／有効とはいえない
外部有識者からの意見	- 湖畔の諏訪湖活用拠点から(観光)消費に繋がる店舗・飲食店の多い地域への誘導が重要と感じる。 - コロナ禍での東京オリンピックであったが、オリンピックに伴う海外選手の合宿など知名度が上がってよかった。今後も積極的に国内外にPRして多くの方に利用してもらえればよい。

事業No. 4 下諏訪町「諏訪湖活用拠点」施設整備計画



小中学生レガッタ・ボート体験会



小中学生レガッタ・ボート体験会



サッカークリニック



ブラインドサッカー体験教室